

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自宅を改装し、家族的な環境の中で住み慣れた地域での安心した暮らしの支援利用者を最優先とする理念をつくっている	○	理念に添った介護を続けていく
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングなど目立つところに理念を提示している。又、会議の時は職員全体で具体的なケアについて意見の統一を図っている。	○	常に念頭に入れて携わるようにする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	外に掲示板を設置し、理念を掲げ地域の方々にも理解いただくようにしている。	○	継続して掲示し、地域の方々にも理解してもらう。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より近隣の方々と挨拶を交わしたり話をしている。	○	運営推進会議や自治会の活動に参加し、交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していて、地域の清掃・夏祭りにも利用者と共に参加している。	○	今後も積極的に参加していく。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が高齢者の暮らしについて相談できる場所を提供し、市の方と共に相談にのっている。又、実習生の受け入れも行っている。	○	地域の方が気軽にいつでも相談に来苑されるような関係を作りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行ない、サービスの質の向上に努めている。指摘事項は改善に取り組んでいる。	○	外部評価の結果をもとに全職員がよりよいサービスが出来るよう努力していく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際など苑のことを理解して頂けるようにしている。アンケートを実地し参加者の意見をサービスの向上に活かしている。	○	自治会の会合に参加して行く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	献立作成の際など相談出来るようになった。	○	様々な事を相談出来るので、サービスの質の向上に繋げていきたい。民生委員にも会える機会が欲しい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在入居者で制度を必要とされる方がいないので、職員はよく理解していない。	○	今後は、積極的に研修などにも参加し知識を深め相談などに対応できるようにしていきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学ぶ機会があり、スタッフ全員が虐待のない介護をしている。	○	今後も知識を深め、研修にも進んで参加する。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ケアに関する考え方や取り組み医療連携体制の実際について説明し同意を得るようにしている。	○	入居された後でも、疑問をもたれた時にはいつでも尋ねていただき不安が無いように十分な説明を行う。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自身が訴える事は難しいが、言葉や態度から察する努力をし利用者本位の運営を心がけている。	○	これからも利用者に寄り添い、不安や訴えを感じとる努力をしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族新聞を郵送し、現在の状態等を報告している。又、個々の健康状態をそのつどお知らせしている。	○	面会に来れない、ご家族に安心していただくように継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際、意見や苦情がある場合は記入して頂ける様に用紙を準備している。記入があれば、迅速に対応出来る様にしている。	○	面会時などなんでも言ってもらえるような雰囲気を作る。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回会議を行い発言する機械を設けている。管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、いつでも気軽に話せるようにしている。	○	親睦会を行い、意見等を聞き反映させていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	休暇願いのもとシフトを作成している。夜勤時など利用者の対応が困難な時は、遅出の残業にて対応している。急な職員の休み応援下さる人を確保している。	○	利用者の状態に変化があった場合、勤務体制の見直しを行い充分な対応が出来るようにする。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を防ぐために職員の勤務時間帯や公休等も出来る限り対応している。やむをえない場合は、新しい職員をきちんと紹介しなじんて貰えるまで引継ぎの期間を取っている。	○	顔なじみの職員の離職はダメージが大きいと思う。よく説明する必要がある、他の職員がフォローするのが重要になってくる。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が委員会を持ち、関係する研修には受講するように促している。それらの研修報告を毎月の全体会議で発表して貰い研修報告書を回覧したいる。	○	今後も研修には積極的に受講してもらうように促していく。又、施設内でも勉強会の項目を決め介護力の向上を目指す。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所などでの勉強会で事例検討等を通じて、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。	○	他のグループホームの見学会などもっと交流を深め様々なことを取り入れていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に職員の話聞きアドバイスし職員同士の人間関係を把握するように努力している。親睦会を行い、気分転換を図るようにしている。	○	親睦を深めるため、会合の機会を増やしストレスの無い関係を築いていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	委員会活動の発表の場があり、責任感、向上心が養われている。	○	個人個人の仕事の重要性を認識して貰う。
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	なるべく一人にしないよう環境になじまれるまで、マンツーマンの対応で不安をなくし話す場を多く持てるようにしている。	○	利用者とゆっくり話せる時間を作っていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談には、今までの家族の苦労や、不安をゆっくりと傾聴する。入居後は安心されるように頻繁に状況状態報告をしている。	○	今後気軽に相談できる環境を考えたい。職員全員が突然の相談にも答えられるようにしたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な方には、柔軟な対応を行い紹介いただいたケアマネージャーと連携をとりながら対応している。	○	困っていること不安なことに対しては、主治医、地域包括支援センターと連携を密にしていこう。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族が見学にこられた際早急に入居になった場合、職員が頻繁に声かけを行い他の利用者との間に入り不安を解消出来るようにしたり、家族と相談しながら工夫している。	○	入居前には、体験入居ができるようにしたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活していく中で、役割を持って手伝って頂きお互いに感謝するという関係が出来ている。又、利用者からいたわりの言葉をかけてもらっている。	○	利用者は人生の先輩であるとの考えを持ち、お互いに和やかな生活が出来るようにしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や、職員の思いを事あるごとに伝え理解していただき、ご家族との協力関係ができています。	○	遠方げ面会に来れないご家族にも時々は来苑していただきたい。職員とご家族との交流も大事にしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の良いところや、家族の思いを伝えることで新たによりよい関係を築けるように支援している。	○	面会時に利用者の状態報告がされてないときもあり、ご家族に安心頂くためにも近況報告を行い関係を蜜にする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から信仰しておられる利用者の所に仲間の方が来苑され勉強会をしていただいている。	○	利用者の馴染みの方や、場所等の情報を把握し話し合えるような時間を設ける。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中はリビングにて過ごしていただき、スタッフも一緒に話をするようにしている。又、身体の変化にも対応できるように勤めている。	○	相性が良くない利用者どうしにはスタッフが間に入りトラブル防止に努める。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のため退所されても面会に行ったり、連絡を取り状態を尋ねたりしている。その際に、家族からの相談に応じている。	○	契約終了のご家族でも、そうだなどあったときは継続して関係を持ち続けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声掛けし把握に努めている。困難な方は、表情や行動から察しご家族からの情報を得るようにしている。	○	入居者の方々とゆっくり話す時間が少なく、把握することが難しいときもある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしの経過を詳しく聴くようにしている。	○	面会時などに本人、家族、知人などから情報を聞き取るようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人の観察記録に毎日の特徴、変化、気づきを記入している。入居者の会話内容を記録してその場の状況、様子が理解しやすいようにしている。	○	理解するのが困難な日を重要に思い、観察を大事にしている。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、課題となることを全職員で話し介護計画に活かしている。	○	利用者本人からの思いを理解することが困難な方もおられる為、出来る限り寄り添い把握に努めるようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行っているが状態の変化が生じた場合は、そのつど申し送りや会議などで話し合い観察をし家族に報告、意見を求め介護スタッフ皆で協議し介護計画を作成している。	○	状態の変化があれば、そのつど見直しが必要。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化を記録し、情報共有を徹底している。	○	少しの変化も見逃すことなく、スタッフの気づきは出来ていると思う。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者が医療処置を受けながらの生活の維持を支援している。	○	重度化した場合や終末期の入院の回避の支援をしたいと思うが現実には難しい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の存在を把握し、意見交換する機会をもうけている。又、ボランティアへの呼びかけも行っている。	○	近くの保育園などの交流も行って行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて訪問理容サービスを行っている。	○	他の様々なサービスも試みたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されるようになり情報交換、協力体制が出来ている。	○	総合的かつ長期的なケアマネジメント等について色々な意見を指導して貰えるように働きかけたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と協力し受診介護を行ったり往診にきてもらったりと納得の行く医療を受けていただいている。	○	常に先生との連絡が取れる様にしている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携体制を組んでる病院は、認知症の専門医で24時間対応していただいている。	○	少しの変化も主治医に報告し対応している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医の指示の基、訪問看護を受け入れている。看護師と医療連携機関との連携も密に取れている。	○	看護職員の配置はしていないが、常に健康管理や医療の助言、対応がけしている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関に本人への支援方法の情報を出し、早期退院に向けて家族とも相談している。	○	面会に行き病院でのようすなど伺い、戻ってこられた際適切な対応が出来るようにしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する方針を定め、家族、医師、看護師を交え話し合いを行い全員で方針を共有している。変化がある度に家族の気持ちの変化に注意しながら支援している。	○	重度化していく度に家族の気持ちが揺れ動くのは察しできます。悔いが残らないように家族の気持ちを大事にしたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意向に基づき、医師、職員が連携を組み、随時意志を確認している。又、急変した場合でもすぐに対応して頂けるように医療機関とも連携を密に図り対応している。	○	様態の変化の際、医療機関との連携で対応し指示を受けた際は、確実に対応出来る様にする。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	暮らしの継続性が損なわないように生活環境、支援の内容に注意が執拗な点について情報提供している。	○	今までの生活暦をできる限り教えていただき、把握し過ごしやすい環境を提供する。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員がお互いに注意し合い言葉掛けや対応には充分気をつけている。又、個人情報の取り扱いには管理者の点検等により徹底している。	○	馴れ合いになり過ぎないように気をつける。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	飲みたいものを尋ねたり(熱いもの、冷たいもの)困難な方に対しても、手に持ってもらい感触で感じてもらう。又、ジェスチャーなども交えた支援をしている。	○	利用者本意のもと全て確認し、行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事手伝いや買い物等一人一人の状態に合わせ、柔軟に対応している。無理に起床しないで自分のペースであった支援をしている。	○	居室にて休んでられる時は、きがけて様子観察を行う。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	歩行可能な方は、近くの美容室に出かけたり、馴染みの美容師さんに来苑していただいている。月1回理容師さんに来苑していただいている。男性は髭剃り、女性は顔そり。	○	おしゃれ好きの方に対しては髪型など、整容の支援を援助している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成には、入居者の好みを聞いたり簡単な下ごしらえ、片付け、台ふき等一緒に行っている。食事と同じテーブルで楽しく食事ができるようにしている。	○	介護が必要な方に対しては、過剰介護にならぬよう注意する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	冷蔵庫の一つを入居者に開放し、好きなときに飲めるように支援している。	○	自分で取る事が出来ない方にも好みを聞いて保管し、いつでも飲めるようにしたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに基づき、尿意の無い方でも時間を見てトイレ誘導を行いトイレで排泄出来るように支援している。	○	トイレ誘導を拒否されるかたであってもスタッフが交代で声掛けを行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	勤務上一人一人の希望時間に合わせるのは難しいが、その時間帯を楽しみにされる方もいる。失禁等などには、シャワー浴出来るように支援している。	○	タイミングを見て声掛けを行う。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室にてすごされるときは、室温に注意してゆっくり出来る環境を整えている。就寝に向けてリズムがあんていするように寄り添っている。	○	夕方から不穏になられる方は注意しておく。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の誕生日には、スタッフ手作りの料理を囲みお祝いし、時にはコンサートを開催している。入居者をお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	時間がかかっても出来るだけ自分でしていただくようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的問題があるため、所持されるのは出来ない。家族とも相談し自由に買い物が出来るように許可を得ている。	○	本人の欲しいと思う気持ちを大事にしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3回買い物日を設けているのでおやつ、身の回りのものなど必要の際は、職員と同行されている。	○	菜園など活用し涼しくなるのでこれからは野菜作りに励みたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方、知人といつでも出かけられるように支援している。	○	皆さんで買い物に出かけてたり、外出の機会を増やしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけたり手紙の文章と一緒に考えたり、宛名書きの支援をしている。	○	手紙を書く方も限られてるので、皆で書くことが出来たらと思う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が来苑された時は、居室や、リビング、応接室など希望に応じて案内しゆっくりとしていただく。	○	近況報告を忘れずに行い、家族に安心感をあたえる。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内での全体会議、ケア会議において身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。勉強会にも参加しシンポジウムの話でも認識を周知している。	○	利用者本意を思えば拘束はありえないと思う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は無く玄関も自由に出入りしている。徘徊、感知器をつけて確認できるようにしている。	○	出来る限り鍵はしていないが、安全性を考えると必要性もある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間居室で過ごされる入居者に対してはプライバシーに配慮しながら観察し、転倒のおそれのある入居者に対しては徘徊感知器などで安全を確認している。	○	自分の時間と皆の時間を有効に過ごせられる工夫をする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については一定の保管場所を決め石鹸はポンプ式で安定置に置いている。	○	危険性がある場合は保管場所の変更を考えている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の申し送りやヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。	○	転倒の恐れのある居室には弾力床材、ガラスにはシールを張り衝撃が軽く済むようにしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力得て、救命救急を学んでいる。緊急連絡網えお配布し緊急時にはスタッフ全員が集合出来るようにしている。	○	地域の方々の協力も必要となる為、日頃より良い付き合いをしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の方々に来ていただき、消防訓練、消火活動、避難訓練の指導を受けている。地域の方々にも参加していただいている。火災報知器も設置済み。	○	夜間時などは地域の方々の助けが必要になると思いますので、日頃より挨拶には伺いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時などリスクについて家族に説明している。又、面会に来れない方には、状況変化を報告している。	○	近況のリスク対応を見直したい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な変化にも見落としが無いよう全職員に徹底している。変化に気づいた時は管理者に報告、医療受診に繋げている。	○	バイタルチェックは朝、夕、就寝前に行い往診、受診もケースにファイルし職員全員が目を通して見ている。医療連携先の看護師には、毎日連絡報告のファックスを送り指示を受けている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースごとに整理し、全職員が把握出来るようにしている。服薬事は必ず確認し、出来ない方には、介助にて支援を行っている。	○	薬の副作用の説明書ファイルを設置し活用している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の排便チェック表を記入し食事は繊維質の高い物や乳製品を取り入れたり水分摂取しやすいようにゼリー状に工夫している。毎日の手足の運動も欠かさず支援している。	○	排便、排尿チェックを忘れずに記入し個人のサイクルを確認する。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自ら口腔ケアが出来る方は、毎食後されるように声掛けし、無理な方は介助、見守りをしている。義歯は夕食後に個別に洗浄液に浸し保管している。	○	不穩で拒否がひどくても、うがいはするように支援している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取を毎日チェック表に記入し、職員が情報を共有している。地域包括のかたに紹介いただいた栄養士に専門的アドバイスを受けている。	○	栄養バランスを考えた献立を作り、定期的に栄養士に指導を仰ぐようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し全職員が予防、対策に努めている。ペーパータオルを使用したり、全職員がインフルエンザ予防接種を受けている。	○	出入りの際消毒を必ず行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染予防委員会を設置し機会あるごとに発表し注意を促している。冷蔵庫の点検、材料の残りは点検し処分している。調理器具は毎晩煮沸消毒、ハイター漂白し記録し清潔に心掛けている。台所の排水口の洗浄を週1回行っている。	○	徹底した感染予防に努めている。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置き、季節の花が楽しめるようにしている。	○	掲示板を利用し、花の紹介や季節の貼り絵など掲示している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるように手作りのカレンダーや壁面の工夫をしている。又、浴槽も快適に過ごせるように改装しました。	○	色々な手作業などで、季節を感じるものを一緒に作りたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスを置いて、ゆっくり出来る様にしている。特に1階のホールには、ピアノや壁面飾りを設置しゆっくり出来る空間がある。	○	もっと空間を活用し、様々なことに活用して行きたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇、鏡台等使い慣れたものを居室に置き居心地良く過ごせるようにしている。	○	入居者野方が使い慣れた仏壇、布団、鏡台などを持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫している。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機を備え定期的にリビング、居室の窓を開けて換気し冷暖房の温度調節もまめに行っている。	○	動きが少ないので、空調は必ず入居者に合わせている。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや階段には手摺、浴槽には手摺、滑り止めマットを玄関のたたきにはマットを設置している。	○	居室、廊下等での転倒につながる原因が無い かチェックしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を防ぐ為に、模様のついたジュウタンを取り除き畳にしたり、何かの不都合がでるその都度全職員で話し合い不安を除くよう努めている。	○	各居室に名刺(顔写真付き)トイレも名刺や目印で分かり易くしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	重度の方が多いため車イス等でスタッフと一緒に畑に行き季節の物を収穫したり外の空気や季節を楽しんでいる。	○	ベランダには物干しがあり、入居者と一緒に洗濯物を干しています。

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2／3くらいの 《 》③利用者の1／3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2／3くらいと 《 》③家族の1／3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2／3くらいが 《 》③職員の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2／3くらいが 《 》③家族等の1／3くらいが 《 》④ほとんどできていない